



(浜離宮)

• • 低 Co2 材 • •

以前、リサイクル通信でも、グリーンアルミについてお伝え致しましたが、日産自動車が本格的に採用を始める様です。グリーン鋼材、グリーンアルミとも調達先は神戸製鋼です。グリーン鋼材の製造は、高炉で生産しますが、その際の Co2 を 20%削減する技術を確認しています。また、マスバランス方式を導入し、Co2 を 100%削減した鋼材を提供していくようです。

このマスバランス方式は、苦肉とも言える方式ですが、同時にリサイクル原料を使用するインセンティブにもなります。例えば、10%のリサイクル原料と 90%の高炉材を使った場合、10%のリサイクル材を使った製品 100 とするか、10%の Co2 削減製品と 90%の従来製品に分けて考えるというものです。まあ、Co2 の削減効果の一部に寄せて、残りは削減無しの製品とみなすという事です。「????」といった感じではありますが、それでもリサイクル素材を使わなければ、成立しない仕組みです。高炉は、産業系で排出する Co2 の 40%を出していると言われており、対策は待ったなしです。菅政権において、2050 年に Co2 排出ゼロとの政府方針が決定しました。日本の高炉 No2 の JFE は、倉敷の高炉1基を電炉に変更すると発表しています。

しかし、高炉が一方向的に悪者になっていますが、自動車鋼板など、不純物の多いスクラップから作るのは、至難の業ではないかと思えます。高炉生産方式が悪いの

ではなく、Co2を大量に出すことが問題なのであれば、生産で出たCo2を回収し、固定化する技術を発展させる方がいいのではないかと思います。人口が増え、都市化が進む中で、鉄の需要は増える方向にあります。世界の粗鋼生産も増え続けています。しかし、電炉法では、スクラップが無いと製造は出来ません。増え行く鉄鋼需要を満たしてきたのは、高炉で鉄鉱石から鉄を作り供給してきたからです。市中で発生するスクラップは余すことなく使い、足りない分、電炉で製造が難しい鋼材を高炉で生産し、Co2は回収し、固定化していく事が肝要なのではないでしょうか。

一方で、アルミは、電気の塊です。グリーンアルミは、太陽光発電や水力発電など再生可能エネルギーを利用して生産したアルミ地金です。現在は、供給地が限られています。世界的にグリーンアルミのニーズが増えていることから、今後増えてくるものと推察しています。

• • SDGs • •

先月の話題となりますが、埼玉県環境部が主体となって開催されました「環境SDGs取組宣言企業成果発表会」にて登壇させて頂きました。短い時間でしたが、自社の取り組みや、今後の方向性などを見直すいい機会となりました。なんとなくこんな感じで、となりがちですが、発表となると資料として纏めなくてはなりません。自社の進め方のポイント、方法論などを文章化する中で、課題も見えてきた様に感じています。企業、事業のライフは 30 年と言われています。導入期-成長期-成熟期-衰退期です。つまり、常に新しい事業を起し続けていなければ倒産するという事です。その際に、自社のコアコンピタンスやケイパビリティを見つめ、目標に向かって進んでいく事が必要です。しかし、目標に至る道筋は沢山あります。どの道を選べばいいのか、どの様な在り方なのか。社会の利益に資するべく、神の見えざる手に導かれる企業や事業があるとしたら、導かれない事業や企業もあるという事です。今は、スミスの時代の様に宗教による規範が強い時代ではありません。だからこそSDGsの思想は羅針盤たるのではないかと考えています。

今年も大変お世話になりました。よいお年を！！